

平成 25 年 11 月 27 日

震災で危機に瀕した地域の歴史・文化の保全・活用を通して復興を考える

『ふくしま再生と歴史・文化遺産』の刊行

2013 年 2 月 2 日に福島県文化センターで開催されたシンポジウムの講演・報告に新稿を加えた記録集が、11 月 22 日に(株)山川出版社より刊行の運びとなりました。

これまでも国や福島県による復旧・復興事業、また福島大学の震災復旧・復興へのとりくみについては報道等でも種々取り上げられてきましたが、地域住民にとっての心のよりどころ、アイデンティティとなる歴史・文化の保全の問題については、ともすれば見過ごされがちで、断片的に情報が伝えられることはあっても、正面から掘り下げて公にされたものではありませんでした。本書はその最初の本格的な試みということになります。

詳細についてはぜひご一読いただきたいのですが、本書の刊行によって、福島県における被災文化財等の概要と県教委（文化財課）の取り組みが明らかにされました。震災直後から旧警戒区域の最前線で歴史・文化遺産の保全に懸命に取り組んできた学芸員の経験と苦悩、そこから発せられた言葉の数々は、研究者・文化財関係者などの専門家だけにとどまらず、ぜひ多くの方々に耳を傾けていただきたいものです。そして、避難生活の長期化にともなうコミュニティ崩壊という危機的状況の中であって、地域の歴史・文化が住民の心をつなぎとめ、コミュニティ再生をはかる鍵となりうることを、数々の実践例を通じて知っていただきたいと思います。そこには大学だからこそなしうる地域連携・地域貢献の可能性も秘められているといつてよいでしょう。

報道関係各位におかれましては、ぜひ本書の内容を広くご紹介いただくとともに、特に旧警戒区域の文化財等が抱える問題・課題をなお一層の取材等によって追求していただき、さらに本書の執筆者一同が切望する、旧警戒区域の歴史・文化を保護し継承していくための施設である震災ミュージアム構想の実現についても、ご賛同いただいた上で世論の喚起に向けてのご支援を賜ることができたら幸いです。

ふくしま再生と歴史・文化遺産

価格： **1,890 円**(本体 1,800 円)

ISBN：978-4-634-15049-2

著者：阿部浩一 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター＝編

刊行：山川出版社 2013 年 11 月

仕様：四六判 ・ 272 頁



【本書の構成】

はじめに —本書の構成と概要—

阿部 浩一（福島大学行政政策学類）

シンポジウム開催の挨拶

山川 充夫（前福島大学つくしまふくしま未来支援センター長・帝京大学）

【基調講演】歴史資料の魅力と活用

五味 文彦（東京大学名誉教授・放送大学）

第 部 原発事故警戒区域内の文化財保全 —被災文化財の今後を考える—

福島県における被災文化財等救援活動の経緯と課題

丹野 隆明（福島県教育委員会文化財課）

双葉町における文化財レスキューの現状と課題

吉野 高光（福島県双葉町教育委員会教育総務課）

大熊町内の被災文化財等救出活動について

中野 幸大（福島県文化振興財団遺跡調査部管理課）

富岡町とそこにあった文化財の震災後の足取り

三瓶 秀文（福島県富岡町役場生活支援課・教育委員会）

第 部 福島県の歴史・文化遺産の今、そして未来

警戒区域における「地域の記憶」継承への取り組み —双葉町泉田家を事例に—

泉田 邦彦（茨城大学大学院人文科学研究科修士課程）

「計画的避難区域」における文化遺産の保護 —復活した飯舘村文化祭が語るもの—

本間 宏（福島県文化振興財団歴史資料課）

奉納絵馬の救出と地域の活動 —須賀川市朝日稲荷神社の事例—

内山 大介（福島県立博物館学芸課）

福島大学による歴史資料保全活動と地域連携

阿部 浩一

第 部 ディスカッションと提言

ディスカッション

報告者全員 / 司会 ・菊地 芳朗（福島大学行政政策学類）

福島からの提言 —震災ミュージアム（仮称）の設置に向けて—

菊地 芳朗

あとがき

（お問い合わせ先）

行政政策学類准教授 阿部浩一

電話：024-548-8318